## 独自テーマ科目「インクルーシブ教育システムの理論と課題」

菊地 一文・土岐 賢悟

## 1. 「インクルーシブ教育システムの理論と課題」の位置付け

「インクルーシブ教育システムの理論と課題」は、今年度の改組に当たって新設された科目で、あおもりの教育 I (環境)、あおもりの教育 II (健康)と共に、地域の教育課題の解決に必要な知識とその実践方法について理論的に学ぶ、青森県教育委員会からの要望科目として位置付けられています。 必修科目のため、1年次の学部新卒院生(以下、ストマス)と現職教員院生(以下、ミドル)全員を対象としています。また、フィールド実習\*をとおして特別支援教育への関心や、対応の必要性が高まっていることもあり、2年次のストマスのほとんどが聴講という形で受講しています。

### 2. 授業の到達目標

本授業では、ストマスの到達目標を「インクルーシブ教育システム構築のための基礎的事項や重要性及び課題を学び、事例を基にインクルーシブ教育システムを実現していくための実践的な方策を理解する。」としています。また、ミドルの到達目標を「インクルーシブ教育システム構築のための理念を理解し、現任校等において児童・生徒の実態を考慮して個々のニーズに応じた教育を展開できる。また、国際法及び国内法、学習指導要領からインクルーシブ教育システム構築の重要性を理解し、他の教員や保護者にその方策を説明できる。」としています。

### 3. 授業の概要

各回の授業では、「合理的配慮と基礎的環境整備」「就学先決定及び転学の仕組み」「授業のユニバーサルデザイン」「キャリア発達の視点を踏まえた生徒指導」「校内支援体制の整備と特別支援学校のセンター的機能の活用」「交流及び共同学習」等のテーマを取り上げてきました。また、国際法や国内法、施策、学習指導要領における記載等の根拠や先行研究を踏まえつつ、青森県をはじめ全国各地の実践事例を示して解説するほか、インクルーシブ教育システムにおける諸課題を解決するための具体的な方策について協議することをとおしてストマス、ミドルそれぞれが自身の役割について考える機会としています。

本授業で大切にしてきたことは、インクルーシブ教育システムにかかる様々な事項について、単なる知識として理解するということだけではなく、自分ごととして、そして自分たちごととして捉え、具体的な解決方策を検討するために他者と協働していくということです。そのため、事例に基づく討議やグループワークを中心とした演習をとおして合意形成プロセスを実感できるようにしたり、ゲストスピーカーによる地域の現状を踏まえた実践的な学びを取り入れたりするなど、より実際的な学修を指向しています。

なお、前期は新型コロナウイルス感染防止の観点から、遠隔授業という形式で対応せざるを得ない 状況でしたが、教員と院生が共にオンラインによる授業スキルの習得に努め、制約のある中で双方向 性を重視した学びを積み重ねてきました。特にグループ討議では、ストマスの真摯に向き合う姿勢と 小・中・高等学校及び特別支援学校に勤務する多様なミドルの経験値が融合、そして化合し、さまざ まな具体的な提案が示されるなど、本教職大学院が「いま教員に求められる4つの力」として示して いる「自律的発展力」「協働力」「課題探究力」「省察力」の向上につながる姿が見受けられました。

### 4. 今後の充実に向けて

本授業は今年度のFD(Faculty Development:教育内容等の改善のための組織的な研修)の一環として公開し、教員間で教育技法改善のための協議を行いました。協議では、授業におけるインプットとアウトプットのバランスの工夫や他の科目との関連付け等、改善につながる貴重な意見を共有することができました。今後のさらなる充実を図っていきたいと考えております。

\*フィールド実習:ストマスが地域の小・中学校等で年間をとおして断続的に行う教育実習。 各自の研究課題を解決するための取組と学校現場における授業実践を往還的に 捉え直し、学んでいくことによって、学校現場における授業実践力のみならず、 教員としての資質・能力の向上を目的としたもの。

参考:講義スライドの一部(第7回「就学相談・就学先決定の在り方について」演習後のまとめ)

#### インクルーシブ教育システムにおける就学先決定の仕組み

- →法令改正により、就学先決定の**仕組み**が変更
  - ・「就学指導」から「教育支援」へ
  - ・「就学基準」による決定から「**総合的な判断**」へ
    - \* 学校教育法施行令第22条の3
      - →特別支援学校に原則「就学する」という規定から、 特別支援学校に「就学できる」規定という解釈に。
      - \*従前「認定就学者」→ 現行「認定特別支援学校就学者」
  - ・「<u>十分な教育</u>」を目指し、本人の障害の状態と学校等 の体制整備を踏まえた**柔軟な転学**を可能に
- →**早期からの相談支援体制**や**合意形成**が重要
- →各自治体・学校における**基礎的環境整備**と**合理的配慮**がカギ
- →交流及び共同学習 (第14回で解説) が重要

改正に伴う調査票等の例 【調査票の構成】 保護者用 市町村教育委員会用 福祉施設等用 医師用 プロフィール 本人・保護者の意向 学習等の様子 必要な支援の内容 医師の診断医療的な配慮 校内委員会の意見 校長等の意見 伴う体制整備 行動観察 これまでのものを整理 新設 ニュートラルな 立ち位置で 相談支援 教育支援委員会 早期療育 合意形成 市町村教育委員会が総合的に判断

# 個別の諸計画の作成と活用

### 個別の教育支援計画、個別の指導計画、個別の移行支援計画

- →ニーズに応じた支援(合理**的**配慮)をつなぐためのツール
  - a.「個別の教育支援計画」

乳幼児期-学童期-青年期等を他分野が連携して支援

b.「個別の指導計画」

学校において各教科等の学習における支援を具体化

c.「個別の移行支援計画」

学校生活から職業生活・社会生活への移行支援

- →特別支援学級及び通級による指導の対象である児童生徒については、a.及びb.の作成と活用が義務となった
- →これらの作成と活用は**入試時の合理的配慮の根拠**にもなる
- →これらの計画は<u>組織的取組</u>、<u>連携・協働</u>のためのツール

#### まとめ

- ・早期からの相談支援体制の必要性
- ・保護者の不安の軽減に向けた共感的・肯定的な受け止め
- ・実際に見ること、知ること、話すこと
- ・選択できる様々なオプションの提示
- ・時間的流れを踏まえ、少し先を見据えて
- ・適切な時期やタイミング
- ・相手の身に立って考えること

-3-

## 第12回「生徒指導をめぐる諸課題ーキャリア発達支援の視点を踏まえてー」

今日の講義では、キャリア発達支援の視点を踏まえた生徒指導の在り方について考えることができた。生徒指導と聞くと、どうしてもいじめや不登校、非行行為などへの対応を先に考えてしまっていたが、本来は「児童生徒の自発的かつ主体的な成長・発達の過程を支援していく働きかけ」であることを再確認することができた。その働きかけのためには、児童一人一人への理解を深めることが重要であり、児童が自発的に行動できるような学級の環境づくり、関係づくりが大切だと感じた。学級担任となった時には、生徒指導の三機能を意識しながら、児童一人一人の実態を踏まえた学級経営と授業を築いていき、児童のキャリア発達を促していけるよう常に心掛けていきたい。

また、実際に自分のこれまでの人生を振り返り、キャリア発達したと思ったエピソードを思い返した時に、やはり一人で成長してきたわけでもないし、キャリア発達につながるきっかけとなったことには大人あるいは教員が関わっていたと感じた。自分の良さというのは、なかなか自分自身で気付くことができないことが多いように感じるため、新しい学習指導要領の総則の柱の1つ「児童一人一人の発達をどのように支援するか」については、合理的配慮やその子のニーズに即した指導だけではなく、まずは認め、良さに気付けるようにすることも大切ではないかと考えた。一人一人の存在の必要性を感じられるようにできると、そこから「自分にできることは何か」「やりたいことは何なのか」など見つけられることにもつながり、自分の役割・価値を感じる経験の積み重なりがキャリア教育の充実にもなると考えた。(ストマス1年)

# 第15回「共生社会の形成と地域生活支援の実際」 ゲストスピーカー: 大橋一之氏の講義に対して

本時の大橋さんの講義を聞き、一番印象に残ったのは、「どんな障害のある人々であっても地域社会の中で生活することで多くの可能性を発揮することができること」「障害のある方々とともに共生社会を創り上げていくことは、社会にとって大変、意味のあること」であった。

学校現場に置き換えて考えると、通常の学級内での障害のある子どもたちの可能性や、周りの生徒や学級集団としての意味においても同様であると感じた。また、学校内での通常の学級と特別支援学級とのかかわりや特別支援学校との交流及び共同学習においても同様の価値があると感じた。

これまでの授業を通して、上記の視点をもつことの大切さとともに、我々教師は特別な支援が必要な子どもへの支援の方法、障害に対する知識、そして保護者への支援、特別支援学校等のセンター的機能等の活用について研修等を積み上げていかなくてはならないと感じた。そして、これらの知識を周りの生徒たちや保護者、地域の方々と共有していくことで共生社会の形成が図られていくと考えた。(ミドル1年)